

30年5月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 5月1日～ 30年5月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/5月	6月	7月
仕入動向	国産材製材品	0.0	△ 12.5	0.0
	外材製材品	0.0	△ 6.3	6.3
	構造用集成材	0.0	△ 7.1	0.0
消費動向	国産材製材品	△ 12.5	△ 18.8	0.0
	外材製材品	△ 18.8	△ 6.3	12.5
	構造用集成材	△ 14.3	△ 7.1	14.3
在庫動向	国産材製材品	△ 6.3	△ 12.5	0.0
	外材製材品	△ 6.3	△ 12.5	0.0
	構造用集成材	△ 7.1	△ 14.3	△ 7.1

・国産材製材品、構造用集成材の仕入動向は5月の横ばいから6月は減少、7月は再び横ばいに。外材製材品は5月の横ばいから6月の減少、7月は増加に。

・国産材集成材の消費動向は5月、6月の減少から7月は横ばいに。外材製材品、構造用集材は5月、6月の減少から7月は増加に。

・国産材、外材製材品の在庫動向は5月、6月の減少から7月は横ばいに。構造用集成材は3カ月連続減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/5月	6月	7月
受注	△ 6.3	0.0	12.5
加工	△ 6.3	0.0	18.8
受注残	△ 6.3	△ 12.5	△ 6.3

・プレカット工場の受注、加工動向は5月の減少から6月は横ばい、7月は増加に。受注残は3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・国産材製材品、外材製材品とも順調に入荷。消費は受注量に合わせて一服状態。在庫は横ばいで推移。構造用集成材は仕入、消費、在庫とも実績なし。
・先月に入港遅れが発生したため、当月の仕入は多くなると思われる。消費は翌々月当たりからに発生。
・5月は、4月と同様受注多いが、6月から梅雨入りすることもあり減少すると思われる。7月から盆まで上棟物件があるため8月初めまで仕入、消費、在庫とも増加あり。

(受注動向)

・先月の高い受注値から若干減少は否定できない。横ばいで推移か。
・翌々月から受注は増加すると思われるが、加工はこれに比例するようにし、受注残は常に一定にする。